

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 中村弘医院 グループホーム花水木
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県伊佐市菱刈前目791
記入者名 (管理者)	幸喜 妙弥
記入日	平成 22年 3月 1日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当施設では、入居者がその人らしく、住み慣れた地域の中で常に笑顔で過ごしていただきたいという思いを込めた当グループホーム花水木独自の理念を掲げている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	デイルームやスタッフルームなど見やすい場所に理念を掲示。会議・研修会で理念の確認を行い、理念に基づいた介護の実践を心がけている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念をデイルームに大きく掲示し、常に目につくようにしている。ご家族にも理念については入居時に必ず説明している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事への参加や当施設の行事への参加呼びかけ等を通して地域との交流を図っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当施設はデイサービスを併設しており、毎日地元の利用者が通所されている。入居者の知人、友人も多く、通所日には面会を楽しまれている。また、買い物や美容院など近所の利用が多く、これらも交流の機会となっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族を通して認知症ケアや介護全般についての相談に応じることがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的についてミーティング等で話し合い、理解を深めるように努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎月の活動報告に加え、評価への取り組みについても報告している。この会議で出された意見を参考にサービス向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外にも行き来する機会が多く、意見交換等を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	毎年の研修課題としており、定期的に研修の機会を設けている。また、行政が作成配布した資料をそろえ家族にも理解を求めている。	○	全職員が制度に対する理解を深めいつでも対応が出来るよう今後も積極的に研修等に参加していきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	毎年研修課題の一つとして、定期的に研修の機会を設けている。当施設での介護が虐待につながる事のないよう理念に基づいた介護を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、できるだけ時間を取り、利用者や家族等に分かりやすく説明を行うようにしている。特に利用料金やリスク、退去については十分な説明を行い同意を得るようにしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	その時々を利用者の言葉や態度から、その思いを察する努力をし、利用者本位の運営を心がけている。また、利用者様の不安や意見等はケア記録に残し、特定の職員の中に埋もれることのないよう注意している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の家族便りにて利用者様の近況報告を行っている。また、運営推進会議の内容も毎回報告書を作成し、ご家族に送付している。金銭管理については入居者様各自の出納帳へ記載し、ご家族の確認印をいただいている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には利用者のご家族がゆっくり話しができるゆとりのある対応を心がけている。また職員の方から問いかけ、意見を言いやすい雰囲気作りに勤めるとともに、運営推進会議への出席を全家族に連絡し、話し合いの場を設けるようにしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会、職員との個別面談等、職員の意見を聞く機会を設け、ケアや日常業務に関してはその意見を可能な限り反映させるよう努力している。また、日頃からコミュニケーションを図るよう心がけ、何でも話しやすい環境作りに勤めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様の自由な暮らしを、できる限り支えることができるよう起床時や就寝時、それぞれのペースに合わせたローテーションを組んでいる。また、常時話し合い、勤務の調整を行うようにしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者様やご家族様への信頼関係を築くためにも馴染みのある職員が対応することが重要であると考えており、職員は固定化している。離職による職員の変更時は利用者との信頼関係の構築を優先するようにしている。	
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には職員が交代で参加するようにしている。また、月1回のミーティングの中で研修内容を報告し、全職員が知識を共有するようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣地域の事業所と協力し、密着型サービス連絡協議会を定期的に開催し、意見交換や情報交換を行っている。また、できるだけ多くの職員が参加できる研修を計画・参加し、相互の向上を図っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	月1回のミーティングにはできるだけ参加し、管理者や職員との意見交換を行っている。また、職員との個別面談を行い、各職員の業務内容、悩み等の把握に努めている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、職員と連絡帳のやり取りで日々の状況や変化を知り、現状の理解に努めている。職員の資格取得に向けた支援や研修等へ参加しやすい職場環境を整え、向上心を高めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用開始前より自宅訪問やホームの見学等を行い、できるだけご本人と直接向き合う機会を設けている。また、併設の通所施設の利用者等と交流する機会を作り、ご本人の状態や思いを把握し、受け止める努力をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談から利用までの間に、これまでのご家族の苦労や今までのサービス利用状況など、入居に至るまでの経過について十分な話を聞くようにしている。また事業所としてどのような対応ができるか、事前に話し合いをしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利 用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、ご本人やご家族の状況や思 いを把握し、必要に応じて地域包括支援センター や地域のケアマネージャー等とも連携しながら 「その時」必要なサービスが利用できるよう支援 を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用す るために、サービスをいきなり開始するのではな く、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染 めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始に際しては、事前に施設見学や 自宅訪問等により職員との面識を作るなどの工夫 を行っている。また、入所直後は家族や親しい友 人等に協力を依頼し、来ていただくなどして安心 感を持ってもらうように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人 から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様は人生の先輩であるという考えを職員全 体で共有しており、普段から利用者に教えてもら える機会作りに努めている。また、ホーム内外で の行事やレクリエーションと一緒に参加し、楽し む機会を設けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく 関係を築いている	ホーム内外での行事等と一緒に参加してもらい、 利用者、家族、職員も楽しんでいる。日常の面会 や月一回発行の「家族への手紙」などで利用者の 様子などを伝え、家族の理解や協力を得ている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、 より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の利用者様への思い、利用者様のご家族へ の思いを受け止め、両者の思いが結びつくような 働きかけを心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容院を利用するなど、馴染みの場所や知人、友人等との継続的な交流ができるよう心がけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎日のお茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにし、日々変化する感情や状況を把握しながら、利用者同士の関係が円滑になるよう働きかけをしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終わっても、この間に培われた関係性を今後も継続したいことを伝え、季節の行事へ招待するなど継続的な付き合いができるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で常に利用者様の言葉や表情に気を配り、真意を汲み取れるよう心がけている。また、意思疎通が困難な方には、その時々動作や表情から察し、職員で話し合いながら適切なケアを提供するよう心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に自宅を訪問したり、本人や家族などから詳しく話を聞き、情報収集を行っている。また、入居後は担当職員が中心となり、馴染みの関係を築きながら、状態把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの利用者様のスタイルを把握し、できることに注目し、利用者それぞれの能力を残職員が把握するよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者様やご家族の思いを日頃のかかわりの中で把握し、自分らしく暮らせるよう介護計画に反映させるようにしている。また、各担当職員を中心に、それぞれの課題について関係者の意見を含め職員全体で話し合い、介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行うと共に、利用者様の状況の変化、ご本人及びその家族の要望に応じて随時、介護計画の検討、見直しを行っている。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気付いた利用者様の状態変化は個々のケア記録に記載し、職員間の情報共有を徹底している。また、定期的に個別記録をもとに介護計画の見直し、評価を行っている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況変化があった場合は、すぐに連絡などを密に取り合って要望などの支援を行っている。外出、外泊、自宅訪問など支援している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員や近隣住民、警察署等には季節の行事や消防訓練などへ参加して頂いている。また地元の小中学生や高校生のボランティア受け入れや保育園児等との交流会を行っている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーや地域連絡協議会の情報提供を行い、他サービスの情報を提供している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	<p>○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		
43	<p>○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	看取りケアに関する指針を作り、本人や家族の意向を常に確認しながら、提携医療機関との連携により医療と介護がチームとして取り組める体制を整えている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前には自宅訪問やご家族からの情報収集を行い、住み替えによるダメージの軽減を心がけている。当施設から他への住み替えを希望される場合には、これまでの生活内容や支援状況等を細かく引き継げるよう支援したい。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりとの関わり方について、勉強会やミーティングを通して確認している。また、プライバシーの保護については定期的に研修課題として取り上げている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の個性を尊重する当グループホーム理念に基づき日々の生活全般に利用者様の希望が尊重されるよう柔軟な対応を心がけている。	○	言葉に出来ない利用者の思いや希望を理解する為に、表情や全身での反応を注意深くキャッチできるよう常に心がけていけるようにしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、時間を区切った生活はしていない。買い物や散歩を一緒にしたり、その時の本人の気持ちを尊重して一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着替えや整容は利用者様本人の意向を尊重しながら支援を行っている。また、店までの送迎、本人のなじみの美容院等で希望に合わせたカットや毛染めをしてもらうなど対応している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	予めメニューを決めているが、時には利用者様の要望に応じて、その都度変更できるようにしている。利用者様の誕生日には希望のメニューを取り入れ、家族や職員と一緒に祝いしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の時間に出すおやつ以外に、好物を自室の冷蔵庫に保管したり、ご家族が持参されるなど日常的に楽しんでおられる。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を作り、時間を見計らいながら声かけを行い、誘導してトイレで排泄できるよう支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調に配慮して入居者へ声かけを行い、入浴を拒否される方にはスタッフ間の連携等により、ご本人の気分に合わせて楽しく入浴していただけるよう心がけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝つきの悪い入居者様へは飲み物をお出ししたり、話相手をするなどご本人の気分に合わせて休息や睡眠が取れるよう心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	季節に応じた行事の計画や、一人ひとりの趣味や生活習慣に合わせた日々の活動など、利用者様が楽しみや張り合いを感じて頂けるような支援を心がけている。梅干漬けやちまき作り、モチつきなど利用者様の指導の下、職員が作業する活動もあり、楽しみにされている。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は利用者様ごとに家族の了解を得てホームで管理し、外出の時などにお渡しして買い物時などは自分で支払ってもらうよう配慮している。	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や体調を考慮しながら利用者様の気分に合わせて近隣を散歩したり買い物に出かけるなどの支援を行っている。施設横に小さな菜園を作っており、野菜の生育を観察したり、すぐ近くの公園や小学生が作る学校田が人気である。	
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者様本人の思いを聞き、ご家族とも相談しながら計画している。墓参りや買い物、自宅前の道路工事の状況の見学、車イスのまま自宅の仏壇までお連れするなど、できる限り対応するように心がけている。	
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、時間に関係なく対応している。家族へのお便りについては、月々の行事や過ごされ方などを担当者のコメントを添えて郵送。ご家族にも入居者の様子が分かるように努めている。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者は各居室やダイルームでくつろいで面会されている。スタッフからはお茶しの際に近況報告を行ったり、家族からの要望、相談に応じる機会にもなっている。家族の方々も他入居者とも馴染みの関係になっておられ、用事がなくても気軽に来られるご家族も多い。	
(4)安心と安全を支える支援			


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> <p>身体拘束については定期的に研修を行い、共通認識を持てるような環境作りに取り組んでいる。</p>		
66	<p>○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p> <p>入居者の状態把握を行い、目配り気配り等により「鍵をかけないケア」を実践している。</p>		
67	<p>○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p> <p>玄関から居室、トイレまでバリアフリーで手すりもつけてある。個室には鍵がかかりプライバシー面にも配慮している。また、デイルームから居室の出入りや玄関が確認でき、状況の把握や安全面にも配慮した作りとなっている。</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p> <p>入居者の状態を確認しながら居室内の物品管理を定期的に行っている。特に転倒予防のための家具の配置や認知症からの異食行動のある方への対応などは毎月のミーティング等で確認している。</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p> <p>事故防止に関する項目は年間の研修課題として、定期的に研修するようにしている。火災訓練は年2回実施している。緊急事故発生時の対応方法もマニュアル化され定期的に見直しを行っている。</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p> <p>利用者様のADLや基礎疾患等について、管理者が心肺蘇生術の講習を終了しており、消防署の協力をもらいながら定期的に救命救急や蘇生術の講習も行っている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず 利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより 地域の人々の協力を得られるよう働きかけている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等 に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応 策を話し合っている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックだけではなく、常に入居者の薬他の状況を把握し、少しでも食欲や顔色、様子などに変化が見られた時にはすぐに管理者や看護師に報告し、状況により医療受診するなどの早期対応を行っている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、入居者一人ひとりの内容を職員が把握し、服薬時には本人に手渡し、服薬できているかを確認している。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行い、一人ひとりの排便状況を把握している。適度の運動や食材、メニューの工夫にも力を入れている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内の清潔を保つために毎食後、一人ひとりに応じた歯磨きの手伝いや入れ歯の手入れなどの支援を行っている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し、職員がその情報を共有しながら、必要な栄養や水分を摂取できるよう支援している。また、現在1名の糖尿病の方がおられる為、栄養士から専門的なアドバイスを受けながら、食事の提供を行っている。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こりうる感染症について、感染症予防マニュアルを作り、情報収集や定期的な研修会等により日ごろから感染予防対策に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具やまな板、ふきんなどは毎晩漂白し、清潔を心がけている。また、冷蔵庫の掃除、食品の期限の点検を定期的に行い、新鮮で安全な食材の提供を行っている。		
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺には季節ごとの花を植え、入り口には手作りの表札を飾り、屋外用のテーブル、ベンチなどを設置し、アットホームな雰囲気作りを心がけ、気軽に立ち寄って頂けるように努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やダイニングなどには入居者による季節の草花が活けてある。また廊下の壁には各種行事の写真等を掲示し、家族などが面会時に見て頂けるようにしてある。また季節感を味わって頂くように、入居者、職員が一緒になり季節のものを飾り付けている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングは一番の共有空間でありソファやテーブル、イスを置いてある。玄関や廊下にもイスを置き、入居者がそれぞれ気の向いた場所で過ごせるように、ぬくもりのある空間作りを心がけている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への家具、電気製品等の持ち込みは原則自由で、各自が使い慣れたものを持ち込んでおられる。また、思い出の品物や写真で壁を飾ったり居室が居心地のよい空間となるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全室、冷暖房完備である。毎日全室の掃除と換気を行っている。また温度調整は利用者の体調などを見ながらこまめに行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレ、廊下等には手すりを付け、段差を解消するなど、安全で自立した生活が送れるような環境作りを行っている。また、各居室についても利用者様の状態に応じてタンスやベッドの配置等の見直しを行い、できるだけ自立した生活が送れるよう配慮している。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に入居者の観察に努め、不安感のない環境作りを心がけている。混乱や失敗などが生じた場合にはその都度、話し合いを重ね、スタッフの判断ミスにつながらない様工夫している。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周辺に小学校の学校田や公園などが点在する環境で、玄関前には休憩できるようにテーブルとイスを配置している。また敷地内に家庭菜園を作り季節の野菜等を植え、入居者が散歩や収穫を楽しんでおられる。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項目			回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない	①
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない	②
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない	①

項目			回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない	①
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	②
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない	①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない	①

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「花水木の心」という理念の下、利用者の皆様が住み慣れた地域の中で安心して生活が出来るように、なじみの関係を大切にすることを職員全体で認識し実践するよう心がけています。その為、開かれたホームを目指し来訪者や近隣の方々が立ち寄りやすい環境づくりに力を入れているところです。ショートステイとデイサービスが併設しており、行事を通して交流を図ったり、日頃から自由な行き来をしたりと個々の利用者の住み慣れた知人との交流も図れるようにしています。また、利用者様が残された力を少しでも発揮し自立した生活が行えるよう、個々の状態に応じたリハビリが受けられるよう隣接の医療機関と連携をはかりリハビリの実施にも力を入れています。通院だけでなく、理学療法士が直接ホームに来て生活に合わせたリハビリを計画し実施することで、生活に密接したリハビリが出来るようにしています。